

【高等学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	佐賀県立小城高等学校
1 前年度評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度から「進化！小城高校2022始動」を掲げ、今年度は校務分掌の見直しなどの改革に取り組んだ。秋には地域の方々に広く参加者を募集し、音楽会を初めて開催し参加者等から高評価を得ることができたが、教育活動を校内だけで完結しない今後の高校のあり方を体現できた取組であった。 生徒の安全安心な学校生活の確保のために、教育相談を充実させ、SCやSSW、外部機関等と連携を取りながら、適切な取組を実施することができた。次年度は、校務分掌の再編することで、更に全職員が一丸となって連携を強化し、多様化する生徒の指導・支援にきめ細やかな対応を推進していく。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> SDGsに基づいた課題を探究する「オンリーワン活動」を展開し、自己有用感を備えた、新たな価値の創造と平和で幸福な社会の実現に取り組む人材を育成する。 多様で開かれたインクルーシブ教育を推進し、次世代の共生社会を担う人材を育成する。
----------------------------	--

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
3 スクール・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと佐賀を誇りに思い、将来は自分の住んでいる地域のために貢献したいという高い志を持つ生徒で、かつ、自分の長所や特技・強みを発揮して学校活性化に貢献しながら、自らの進路実現を図る生徒を求めます。 「文武一途」の精神に基づき、学習活動や部活動、生徒会活動等に熱心に取り組み、「知・徳・体」の調和のとれた人材となって社会貢献を志す生徒を求めます。 「創造Originality」「挑戦Great Challenge」「誠実Integrity」の実践を通して人間性を陶冶し、学習活動や特別活動等に一生懸命取り組んで、自らの進路実現を図ろうとする生徒を求めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の観点から絶えず授業改善を図ります。 大学入試をはじめ、生徒の多様な進路選択に迅速に対応して進路実現を目指します。 「オンリーワン」活動を実施し、進路選択をはじめとして将来の人生の指針となるように活用します。 次世代の共生社会を担う人材育成のため、高大連携や校外活動等を積極的に展開します。 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル（グローバル&ローカル）に発想し行動できる人間を育成します。 新しい価値の創造を通して現代社会を逞しく生き抜き、平和で幸福な社会づくりに貢献できる人間を育成します。 健全な自尊心と他者を思いやる心と備え、共生社会を担う人材として人間性豊かな人間を育成します。

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動や特別活動、探究活動、部活動、生徒会活動、ボランティア活動など、教育活動全体を通して、生徒自身が自分の将来と真剣に向き合い、主体的に考え、進んで行動し、望ましい自己実現ができるようにキャリアデザイン力の育成を図る。 社会人としての規範意識を身につけ、周囲に感謝と心遣いのできる人間の育成を目指す。 SC、SSWや専門機関等とも連携し、生徒の発達段階に応じた自己理解を深めさせ、学校生活への適応、好ましい人間関係の構築などへの支援を充実させる。
------------	---

5 重点取組内容・成果指標 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着及び進路実現を見据えた学習指導の実施	○各教科の代表者が研究授業を行い、授業改善について研究協議する。 ○教科担当者会議を年2回以上行い、教科間の連携や分析を行う。	『主体的・対話的で深い学び』の視点に立った指導法を研究し、授業改善に取り組む。 ・模擬試験や定期考査の分析を行い、各教科の課題量や質、学習時間の配分について教科担当者と担任で綿密な情報交換と連携を行う。					進路指導主事
	○キャリア教育の充実及び生徒の進路志望の実現 ○多様な入試の形態に対応した進路指導の充実	○個人面談を年3回以上行い、自らの生き方を考えさせ、興味・関心、能力、適性に基づいて主体的に進路を決定できる能力の育成を図る。 ○進路講演会等を実施し最新の入試情報を得る。 ○生徒が志望する進路を実現する。自分の希望する進路を実現した生徒の割合80%以上になるような進路指導を実践する。	・教職員はキャリア・カウンセリング・マインドとスキルの共有を図り、個人面談等を行う。 ・総合的な探究の時間、キャリア教育講演会等の行事を通して、生徒のキャリアデザイン力の育成を図る。 ・特に学校推薦型選抜、総合型選抜や国立大学の入試動向等についての情報研修会、研究会や講座に参加した職員の割合が30%以上になるようにする。 ・オープンキャンパス、校外体験学習や研修、コンペやワークショップ等へ参加した生徒の割合が50%以上になるよう奨励する。					進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の実践	●生徒、職員が人権感覚を身に着けるための研修機会を年2回以上設ける。	・人権学習・進路保障HR活動を全クラスで実施する。 ・人権・同和教育講演会を実施する。					道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケートを実施し、組織的な対応を行う。 ○情報モラル教育に関する講演会を実施し、いじめ防止に努める。	・教育支援部、生徒支援部、学年で情報を共有し、いじめアンケート等について、追跡調査、指導を行う。 ・講演会だけではなく、全校集会、学年集会において、いじめや差別、偏見につながるような行為は許されないことを周知し、道徳心や倫理観の育成に努める。					(主)生徒指導主事 (副)各学年主任
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎郷土小城や佐賀について学ぶ活動や講演会を実施し、アンケート等で郷土に愛着を持っている生徒80%以上にする。	・SDGs講演会やさがを誇りに思う講演会、小城市出前講座を実施し、地元小城や佐賀の魅力について知見を深め、持続可能なよりよい社会を形成しようとする意識や意欲を醸成する。					研修主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○健康寿命を延ばす食生活を意識し免疫力を高める食事の摂取の推進	●「健康に良い食事をしている」と考える生徒の割合90%以上にする(高2対象) ○毎朝、朝食を自宅とて登校する生徒の割合90%以上にする(高1・2対象)	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりの発行を通して、食や健康管理に関する意識を高める。 ・関係教科との連携を密にするとともに情報共有を行い支援にいかす。 ・保護者への個別の連絡を徹底する。					保健指導主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○各種休暇を取得しやすい雰囲気を作り、平均年休取得日数14日以上を奨励する。	・定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日を設定する。 ・衛生委員会などで情報を共有し、気になる職員には個別に対応する。 ・早めの個人の業務計画立案を習慣化し、年休が取得しやすい環境作りを行う。 ・チームや組織による業務遂行を定着させ、業務の効率化と勤務の平準化を目指す。					管理職
●特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の充実 ○チーム支援体制の強化 ○早期発見、早期対応の徹底 ○個に応じた教育の充実	○合理的配慮について必要な生徒及び保護者の理解を100%にする。 ○2次障害を発症する生徒をなくす。 ○支援が必要な生徒は、100%チームで対応する。 ○カウンセリングに対する偏見をなくし、必要な生徒が必要なタイミングでカウンセリングを活用することができる力を養う。	・生徒情報交換会議を、各学年毎に毎月開催し、学年及び生徒支援グループ間の情報共有を密にする。 ・合理的配慮については、入学式やPTA総会、その他保護者面談等を利用して情報提供を行うと共に、適切な配慮の実施及び定期的な評価改善を行う。 ・生徒及び保護者との面談、SCの活用のタイミングを逃さず、早期発見、早期対応に繋げる。 ・西九州大学と連携しながら、1年生全員に対して、カウンセリングを体験する機会を作る。					教育支援部主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合70%以上、教職員の割合90%以上	・オンリーワン活動において、社会貢献活動やボランティア活動に参加した生徒が30%以上になるように地域の行事や校外のイベントの情報を生徒に周知し、積極的な参加を促す。					研修主任
○共生社会を担う人材の育成	○共生社会を担う人材育成に関する教育活動の実践	○共生社会とは何かについて、知っていると答える生徒を80%以上にする。 ○共生社会について、深く学ぶ生徒集団を作り、リーダーを育てる。 ○バラスポーツを見る、体験する生徒を90%以上にする。	・バラスポーツに触れる機会を全校生徒に作る。 ・九州大学と連携し、九州大学の講義に参加し、共生社会についての知識を深め、リーダー的役割を果たす生徒を育てる。 ・九州大学ピアアポーターと生徒間で交流し、共生社会についての学びを深め、活動を通して、その理念を全校生徒へ普及させる。					教育支援部主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	
----------------	--